

ずいそう

## ゴルフと人生を楽しむ

岡 忠 志



ゴルフを始めたきっかけは、会社の上司に勧められた初ラウンドにて、ロングホール初バーディーという劇的デビューを果たしたのがきっかけ。その時の感覚が忘れられなくなりゴルフに没頭し始めた。「上手になりたい!」という気持ちは強い。毎週のように練習に通い理想のショットを追求し続けている。

最初こそ不安と緊張で一杯だったが、打った時の手応えや、ゆるやかな曲線を描く飛球を見ると、いつでも新鮮な達成感を覚える。ゴルフというスポーツは身体を動かすこと以上に精神面でも集中力が求められる!心身共に集中して打った良いショットを出した爽快感は格別だ。

練習の成果が見られることで自分自身の成長を実感することができ、自己肯定感が高まることも魅力の一つである。しかしゴルフは人生と一緒に難易度の高いスポーツである。全てが自分次第でありスイングのリズム、ショットの精度、コース戦略、自分との戦いというような要素が絡み合う上に、コースの風向きや地面の傾斜なども考慮しなくてはならない。その為ゴルファーにとっては、人生と同様に我慢を続けた先に喜びがある。常にゴルフは自分自身と向き合い色々な難局を乗り越

え18ホール終了した時の達成感がなんとも心地良い!

そしてやはり日頃の練習の成果を友人・同僚とラウンドして実感できることが明らかに楽しい。それはゴルフ場内での過ごし方においても同じである。クラブハウスでの食事ドリンクはコミュニケーションを茶化しながら楽しむことができるし、ラウンドで初対面の人も親睦が図ることができ、友達になることが可能だ。私は遠方にあるゴルフ場へ出向いたり、旅行先でもゴルフに親しんだりすることで多くの思い出ができた。これはゴルフをしていなければ経験できなかったことである。一日中一緒に行動するスポーツであることから、自然と親睦を深めやすく、特に取引先との関係を良好にする効果が大きいと実感している。食事やラウンドを共にすることにより、ビジネスのみの付き合いでは叶わない会話を通じて商談相手との意思疎通もスムーズに行われるようになった。また、社外の人物に限らず自社の社員とのラウンドも多い。そのよう



写真-1



写真-2



写真-3

な折では、日々の仕事や交流では気づくことができなかつた思わぬ実力や、意外な一面に驚かされることがあった！こちらもゴルフの醍醐味である。

初心者の頃の目標は常に誰よりも遠くへ飛ばすこと！スコアは100を切ることを目指し日々練習に励んでいたところ、一向に上達せず。まさに「木を見て森を見ず」の状況であった。満足のいく一打のショットがたまに出ていてもラッキーであるためか次には繋がらず、相手とスコアを競うことだけをただ焦ってしまい、なかなか安定しないショットに一喜一憂させられていた。そんなある時、ゴルフコースの自然の景色から“無”の心となり、気が付いたときには18ホールラウンドが終了していた。なんとスコアはパープレイ72！今では、どうやってそのスコアが出たのかがまったく思い出せない。このことから学んだのは、常に同じ結果は出ないこと。同じコースで同じような天気でも続けて良い結果になるとは限らないポイントに楽しさを見出し、自然を楽しむ余裕を意識するようになった。そして、日々自分の苦手なショットを克服したり、創意工夫したりすることが求められる。例えば、ライの条件や風向きなど、環境に応じた打ち方をイメージしつつ常に新しいショットに挑戦することが大切だ。基本パターとアプローチの練習量は全体の7割を占める。それは18ホールラウンドする中で一番使うクラブがパターとアプローチだからであり、よりよいスコアのための要となるからである。



写真—4

若いうちから始めるべきスポーツは多いが、ゴルフは遅く始めても諦めずに継続して練習を重ねることで、自分のスタイルで必ず上達することができる。ゴルフ場には幅広い年齢層の方々がそれぞれのペースでプレイしている。自然と親しみ、人と親しみ、生涯を通じて付き合い続けられるスポーツである。

今後の目標は、シングル5以内である。常にストロークに挑戦し続けるつもりだ。年齢を重ねると共に新たなスタイルのショットを研究し、ベストスコアを更新するための技術を磨き続けることで、ゴルフをより楽しむことができると思っている。そしてこれからも新たな人との出会いや、友情を深めることも大切にしたいと思っている。ゴルフは、ただのスポーツではなく、人生そのものと言えるだろう。

—おか ただし (株)ダイワテック 代表取締役—